

日本語モダリティの理解のために

—スロヴェニア語との対象から—

重盛千賀子（リュブリャーナ大学）

chikako.bucar@guest.arnes.si

【要約】

日本語の統語法の理解を深めるために、スロヴェニア語で説明した小さな補助教材を2024年秋に出版した。動詞のヴォイス現象を中心にしたものではあるが、後半では日本語モダリティを簡潔に説明することを試みた。本稿では、スロヴェニア語文法、日本語文法、そして日本語教育におけるモダリティを概観し、それを踏まえて、新しい教材で日本語モダリティをスロヴェニア語母語話者である学習者にどのように紹介したかを報告する。

1. はじめに

スロヴェニア語に限らず、英語、ドイツ語、フランス語などの印欧語には、いわゆる modal auxiliary (法助動詞) と呼ばれる動詞があり、辞書の定義においても見られるように、それらの「法助動詞」が文の発話者の心的態度を表すとされている。法助動詞が、具体的な事実としての動作・出来事などを表す本動詞とともに使われて、物事のモダリティ、つまり命令、許可、禁止、義務、依頼、意思、推量、確認などの意味を表現する。スロヴェニア語でもこのような法助動詞 (naklonski glagoli) があり、他の印欧語と似たような形で文を形成している。

例1 [英] John **must** work every day.

[ス] Janez **mora** delati vsak dan. 法助動詞の基本形は *morati*

(ヤネスは毎日働かなければならない。)

例2 [英] **May** I eat this?

[ス] **Smem** jesti tole? 法助動詞の基本形は *smeti*

(これを食べてもいいですか。)

2. スロヴェニア語文法におけるモダリティ

スロベニア語のモード・モダリティ (naklon in naklonskost) に関する最近の研究では、いわゆるモダリティを表現するすべての言語的手段を、1) 動詞 (動詞形、法助動詞、特定の動詞や歴史的動詞のモーダルな用法) と、2) 動詞以外の手段 (動詞から派生した不変化詞、副詞) の2つに分類している。そしてこれらは、個々の状況において、話し手の伝達意図を表現するための、文形成に必要な形態統語論的カテゴリーであるとしている (Žele 2023)。

- 例3 **Želi** govoriti z njo. 動詞 (želei=願う、望む) のモーダルな用法
 (彼女と話したがっている。)
- 例4 **Naj** napiše vse. 不変化詞
 (すべて書くがいい。/彼にすべてを書かせよう。)
- 例5 **Lahko** delam. 副詞
 (働くことができる。)

3. 日本語文法におけるモダリティ

日本語では、モダリティという言葉が言語学の議論に使われるようになったのはかなり遅く、1980年代の終わりごろからである。思考の単位としての文の性質は、近代日本語学では山田孝雄の「(概念と) 陳述」(1936年)、時枝誠記の「(詞と) 辞」(1950年)などの用語を用いて議論されてきた。1950年代には、バイイ Bally (1865-1947) によって提唱された dictum 対 modus という二項対立の概念が、文形成を説明するために三上によって「コトとムード」として使われるようになり、その後、寺村はテンス(時制)もムードに入れて、対事的ムード(話し手が物事をどのように捉えるか)と对人的ムード(話し手の聞き手に対する態度)の2種類のモダリティを提唱するなどしている。また、コトとムード、つまり命題と陳述という対立概念は、命題がモダリティに包まれた、層を成した構造として図式化されている(仁田、図1参照)。日本語の文においてモダリティの部分を実際の言語的手段は、動詞の活用形、助動詞、コピュラを伴う形式名詞、副詞、その他のコロケーションなど、さまざまなものがある。

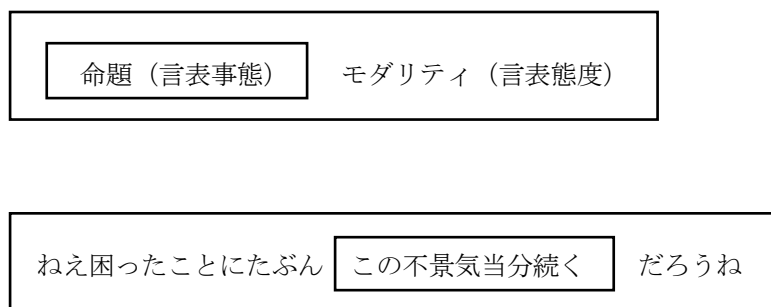


図1：命題とモダリティの図式 (仁田 2016: 25)

ここまで簡単に、現在のスロヴェニア語と日本語の場合のモダリティの意味と形態を見てきたが、対比される二言語の比較第三項 (tertium comparationis) は、モダリティの意味的定義、厳密にいうと、「コミュニケーションにおいて、客観的な事実(コト)を述べる述部に加えられる、またはそれを包むように位置する、伝達における意図や主観を表す部分」になる。

4. 日本語教育におけるモダリティ

非母語話者に対する日本語教育では、いわゆるモダリティ表現は、初級から中級にかけて散らばっていて、少しずつ導入されているようだ。例として、『みんなの日本語初級I、II』の内容をざっと見てみると、以下のリストのように、第13課以降、ほとんど毎課、または一課おきに、何らかのモダリティ表現が導入されている様子があった。

- L13 欲しい、食べたい
- L15 写真を撮ってもいいです。
- L17 ~なくてもいいです。
- L18 ~ことができます。
- L19 ~ことがあります。
- L24 教えてもらいました。送ってくれました。
- L26 ~のです、~んです。~していただけませんか。
- L27 日本語が少し話せます。なんでも作れるんですね。
- L29 ~てしまいました。~てしまったんです。
- L30 ~ておきます。
- L31 ~るつもりです。~ようと思っています。
- L32 ~たほうがいい、~かもしれません。
- L33 急げ。さわるな。
- L36 泳げるように、乗れるようになりました。
- L37 受け身
- L39 ~を見てみたいです。
- L41 教えてくださいました。直していただきました。預かっていただけませんか。
- L43 降りそう、優しそう
- L46 もう直ぐ着くはずです。
- L47 寒くなるそうです。部屋に誰がいるようです。
- L48 使役、休ませていただけませんか。
- L49 尊敬語
- L50 謙讓語

また、2023～24年にかけて、私自身が担当している学部2～3年生、そして4・5年次にあたる修士課程の語学の授業の中で、それぞれのレベルの学生がモダリティ表現にあたる語句や表現をどの程度理解し、使いこなしているか、いつもより注意を払って観察してみた。モダリティとひとことに言っても、導入時期、意味範囲、表現形態などが多岐にわたるため、すぐに調査結果を出すことはできないが、それぞれの語彙や文型が導入された時点でそれらを正しく身につけることができているかにより、後になっても正しい理解ができていない者、つまりそれぞれの文法事項の理解や運用に穴がある学生もちらほら見られた。また、修士課程では、ある練習問題の中で「はず」、「つもり」などの形式名詞に並んであつかわれている「べき」だけが未習事項であることが判明したりした。

5. 『スロヴェニア語話者のための日本語統語法』

2年ほど前に、リュブリャナ大学のスロヴェニア語の教授から話を持ちかけられ、『スロヴェニア語話者のための日本語統語法 *Japonska skladnja za slovensko govoreče*』という補助教材を作り、2024年9月に出版した。内容構成（目次）は次のとおりである。

1. 文の中の動詞
 - 1.1 動詞と項
 - 1.2 基礎動詞の分類
 - 1.3 他動性と有生性
 - 1.4 動詞文と形容詞文（行為・事件・状態）
2. 文のタイプ
 - 2.1 その他の格助詞相当表現
 - 2.2 アスペクトと時制
 - 2.3 時制とムード
 - 2.4 モダリティとムード

自・他動詞や受け身、使役、それらの動詞にどんな格助詞が使われるかなど、つまりヴォイスの基本を中心に述べた教材だが、ヴォイス体系を説明するためにいろいろな文型を扱う中で、やはり、どのような文のタイプがあるかを説明するためにはテンス、アスペクト、モダリティのすべてが関係してくるため、この教材の最後の部分にごく短く、日本語のモダリティの説明もしてある（上記目次の2.3～2.4）。スロヴェニア語母語話者に、彼らが大学に入るまでに学んできた母語におけるムードとモダリティの知識を背景に、日本語のモダリティを理解してもらうためにはどのような説明がいいのか、共著者に助けをもらいながら、例文を交えて約6ページにまとめることができた。

第3節で述べたように、日本語ではモダリティーについて、1990年代以降、多くの研究がなされ、参考文献も多数ある。その中で、スロヴェニア語と比較対照しながらモダリティを説明するためには、寺村と仁田の文献が一番参考になった。以下、実際に使った例文の主なものを出しながらこの教材の概要を述べる。

まず教材の2.3では、寺村（1984）に倣って、一次的ムード（*primarni naklon*）として基本形と過去形のモダリティ用法を紹介した。以下の例6～10のうち、9と10は助動詞/形式名詞を伴ってモダリティを表す過去形の例である。

例6 （探していた眼鏡が）あった。 (Očala, ki sem jih iskal,) so tu.

例7 明日までの宿題があった。早くやっしまおう。

Domača naloga (do jutri) je (bila). Naj jo hitro naredim.

例8 [チェスの試合で] 待った! Trenutek! / Počakaj!

例9 あの飛行機に乗ったら死んでいただろう。Če bi šel na ono letalo, bi lahko bil mrtev.

例10 その飛行機に乗ったわけではない。 Ni res, da smo šli na to letalo.

そのあとで二次的ムード（*sekundarni naklon*）として確言形に後接する助動詞の用例を紹介した。

例11 雪が降るだろう。 Verjetno bo snežilo.

例12 雪が降るらしい。 Baje, da bo snežilo.

例13 雪が降るようだ。 Videti je, da bo snežilo.

例14 雪が降るそうだ。 Pravijo, da bo snežilo.

さらに、モダリティを表す形式名詞を含んだ文型や、初級から中級で導入される文型・コロケーションの例も挙げた。

例15 寒いはずだ。 Saj mora biti mrzlo.

例16 寒いわけだ。 Razumljivo, da je mrzlo.

例17 雪が降るかもしれない。 Možno je, da bo snežilo.

例18 雪が降るに違いない。 Gotovo bo snežilo.

また、比較第三項が「伝達における意図や主観を表す」という意味であることを考慮し、教材の2.4には、すでにヴォイスの説明で触れた受け身や使役、また、モダリティ表現の助動詞とともに使われる副詞、話し言葉でよく使われる終助詞などもモダリティ表現手段に含まれると説明した。

例19 先生が妻に死なれる。 Učitelju umre žena.

例20 学生を部屋に入らせる。 Dovolim študentu iti v sobo.

教材に列挙した終助詞（な、ぞ、か、よ、ね）、間投詞（ああ、おう、おい、ねえ）、副詞（たぶん、ぜったい）などの例はここでは割愛する。

6. おわりに

スロヴェニア語文法において、モダリティは「話し手の伝達意図を表現するための、文形成に必要な形態統語論的カテゴリー」と定義されている (Žele 2023)。他の印欧諸語と同じように、スロヴェニア語にもいくつかの法助動詞がある (例 1~2 に挙げたもののほか *moči*=できる、*hoteti*=~たい、*želeti*=望む、*upati se/si*=敢えて~する、*bati se*=怖れる)。スロヴェニア語母語話者に日本語の統語法を説明する教材では、日本語の特徴として、「日本語のモダリティの大部分が個々の語彙に頼らない統語的現象である」 (Shigemori Bučar & Žele 2024: 88) とした。

今後、この教材を使いながら、学生達の意見と批判を聴いていきたいと思う。

主要参考文献

- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味II』 くろしお
- 仁田義雄 (2016) 『文と事態類型を中心に』 くろしお
- 林四郎 (2010) 『パラダイム論で見る句末辞文法論への道』 星雲社
- 宮崎和人他著 (2002) 『新日本語文法選書 4 モダリティ』 くろしお
- Fran, slovarji Inštituta za slovenski jezik Frana Ramovša ZRC SAZU (スロヴェニア学術アカデミー スロヴェニア語研究所のオンライン辞書集「フラン」) 2014–, različica 8.0 <www.fran.si> (2025年1月31日)
- Palmer, Frank Robert (2001) *Mood and Modality*. Cambridge University Press.
- Pardeshi, Prashant & Kageyama, Taro (ed.) (2018) *Handbook of Japanese Contrastive Linguistics*. Boston; Berlin: De Gruyter Mouton.
- Pizziconi, Barbara & Kizu, Mika (2009) *Japanese Modality: Exploring its Scope and Interpretation*. New York, Palgrave Macmillan.
- Shigemori Bučar, Chikako & Žele, Andreja (2024) *Japonska skladnja za slovensko govoreče*. ZIFF Ljubljana. 電子版 <<https://ebooks.uni-lj.si/ZalozbaUL/catalog/book/624>> (2025年1月31日)
- Toporišič, Jože (1992) *Enciklopedija slovenskega jezika*. Ljubljana; Cankarjeva založba.
- Žele, Andreja (2023) Naklon kot morfoskladenjska kategorija v slovenščini. *Jezik in slovstvo* 68, 1; 35-51, Slavistično društvo Slovenije.

教科書

- スリーエーネットワーク 編著 (1998, 2012) 『みんなの日本語初級I、II』